

多様な表現の場の工夫

Web会議を活用した学校間の交流

—どの学校でもできる活用方法—

複式学級の悩みは……

- 各学年が少人数である
 - ・ 多様な意見が**出にくい**。
 - ・ 表現の場や相手が**限られる**。



Webでの交流(Web会議)を取り入れることで
子どもたちの**表現の場を広げる**ことができる。



Webでの交流（Web会議）でできること

インターネットを通じて映像・音声のやり取りや、資料の共有などができる。

移動などのロスなく、教室と教室をつなぐことができます！

- 離れた場所との交流が可能である。
- リアルタイムで交流ができる。



※ PC、タブレットなどの機器とインターネットに接続できる環境は必要ですが、専用の設備や複雑な設定などは必要ありません。

① ESnet標準 「Web会議システム」の活用

② インターネット上の Web会議システムアプリの活用

① ESnet標準 「Web会議システム」の活用

—どの学校でもできる活用方法—

＜＜準備物＞＞

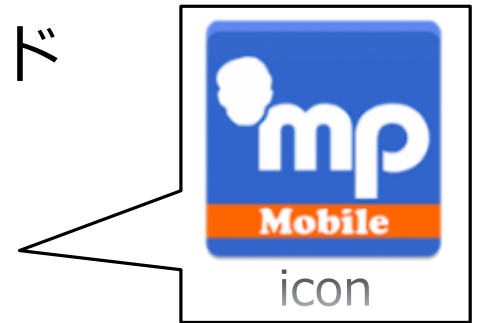
Esnetのメールアドレス、パスワード、PC・タブレット、
プロジェクター、「meeting plaza」ログインID、パスワード

＜＜利用方法＞＞

- (1) ESnet内部ポータルサイトより書類をダウンロードする。

「内部ポータルサイト」 > 「Web会議システム」（画面中央下）

- (2) 必要事項を記入し、愛媛県教育委員会教育総務課へ送付する。
- (3) アプリ「meeting plaza」をダウンロードし、ログインする。
- (4) インターネット上で「meeting plaza」から、月日や時間帯を予約する。



① ESnet標準 「Web会議システム」の活用

—どの学校でもできる活用方法—



≪実践例≫4年生の授業実践

交流校	少人数学級：4年生2名 相手校：4年生20名
教科	国語科
単元名	だれもが関わりあえるように

前時までにそれぞれの学校で
発表資料を作成する。

- 互いにスピーチを行う。
- 質問や意見交流をする。

学 習 活 動	時間 (時刻)	○ 指導上の留意点 評価
1 本時の学習課題を確認する。 「だれもがよりよく関わり合う」 ということについて、考えを深め るための発表会を開こう	2	○ 発表会を行うことが目的ではなく、自分の考 えが深まるようしっかりと△△小の発表を聞 くように課題を意識させる。
3 発表の最終確認を行う。 (1) 話し方 (2) 聞き方	8	○ 話し方と聞き方について確認し、自分のめあ て（いちばん気を付けること）を決めておく。 ○ △△小の児童に向けて発表する前に、簡単 な練習を行い、緊張をほぐす。
4 Web で△△小と交信する。	5 (9:35)	○ 意見や感想が言いやすい雰囲気を作るよう にする。
5 発表会を行う。 (1) △△小1人目 (2) □□小1人目 (3) △△小2人目 (4) □□小2人目 (5) △△小3人目	20	○ 発表が終わったら、意見や感想が言えるよう にワークシートにメモできるようにしておく。 話し手は、聞き手の反応を確かめながら、 話の内容がよく伝わるように抑揚や強弱、問 の取り方などを工夫して話している。（発表） 聞き手は、メモを取りながら聞き、内容面 と表現面との両面からよい点を見つけたり、 自分の考えと比べて感想をもったりしている。 （観察、発言）
6 Web での交信を終了し、本時の学 習を振り返る。	(10:00) 10	○ 本時の学習課題や自分のめあてに対する振 り返りができるよう意識させる。

① ESnet標準 「Web会議システム」の活用

—どの学校でもできる活用方法—

≪実践例≫4年生の授業実践

「Web会議システム」は、
当日30分前から接続が可能です。



資料を使って発表する

スクリーン

タブレット

相手校の友達が
真剣に聞いてくれる！



相手校の発表を聞く

相手校の友達のスピーチで
初めて知ることが
たくさんあったよ

② インターネット上の Web会議システムアプリの活用

—どの学校でもできる活用方法—

アプリ「Zoom」での活用例

＜＜準備物＞＞

メールアドレス、パスワード（両校とも3つあるのが望ましい）
PCまたはタブレット3台、プロジェクター2つ



＜＜利用方法＞＞

(1) アプリ「Zoom」をダウンロードし、メールアドレスとパスワードを
使って、ログインする。

いつでも通信できます。
無料版は40分（時間が来ると通信が切れます）です。
有料版は無制限で利用可能になります。

2 10桁の番号が決まる。

3 どちらかが相手校の番号を入力し、もう一方は待機する。

② インターネット上の Web会議システムアプリの活用

—どの学校でもできる活用方法—



アプリ「Zoom」での活用例

≪実践例≫5・6年生の複式を解消した授業実践

1 単元全ての授業について、単学年の授業として実施

学年		5 年生	6 年生
児童数	A校	1 名	1 名
	B校	2 名	3 名
教科		国語科	国語科
単元名		明日をつくるわたしたち（全11時間）	未来がよりよくあるために（全14時間）

評価については、事前に観点を共有し、授業の様子やワークシート等から、主に授業を担当した教師が行う。

② インターネット上の Web会議システムアプリの活用

—どの学校でもできる活用方法—



アプリ「Zoom」での活用例

≪実践例≫5・6年生の複式を解消した授業実践

5年生：A校の教師が授業を実施



タブレットの1台は
児童を映すために
使用する。

授業を担当する
教師がいる学校は、
教師や黒板を写す
タブレットをさらに
1台使用する。

タブレットが2台ある場合は、
雑音を押さえるために、児童用
タブレットの音をミュートにする。

6年生：B校の教師が授業を実施



授業者のいない教室においては、
児童の安全な学習が保障できるよう
人員配置等を各校で相談する。

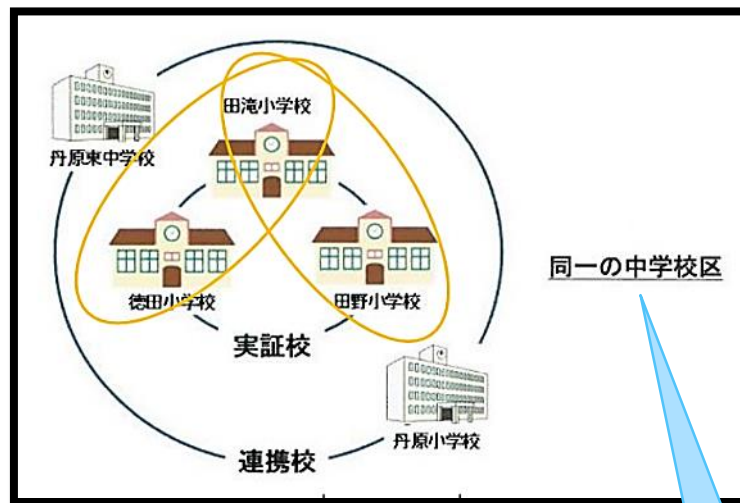
(参考) Web会議システムを活用した県内の実践

《実践例》同一の中学校区での遠隔合同授業実践(平成28年度実践アイデア)

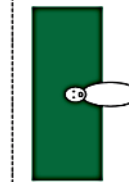
文部科学省の「人口減少社会における ICT の活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」西条市の取組より

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1364592.htm)

3校のうち2校をつないで
遠隔合同授業を行う



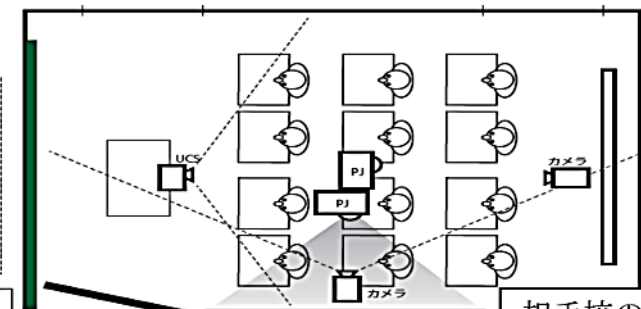
相手校の先生



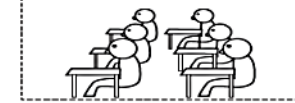
相手校の先生が教室前面のスクリーンに映り、実際に自分たちの教室で授業をしているような感覚の中で学習を進めることができる。

○ 使用機器

大型スクリーン、プロジェクター、WEB会議システム、電子黒板、マイク・スピーカーシステム、タブレットなど



相手校の児童



相手校の教室の様子が側面のスクリーンに映り、相手校の児童と一緒に学習をしているような感覚の中で学習を進めることができる。



授業だけでなく、同じ中学校へ行く児童同士の交流につながり、中1ギャップ解消への効果も期待できる。

Web会議システムを活用した学校間の交流

自校のICT環境を生かして
できる方法から
試してみましょう

交流のメリット（○）とデメリット（●）

- 多様な考えに触れる機会の保障になる。
- 複式学級を解消し、単学年での授業にも活用できる。
- 児童が楽しく授業に取り組み、交流が深まる。
- アプリの機能で、教科書や児童の意見を全員で見たり、書き込みなどの双方向のやり取りをしたりすることもできる。
- 音が届くまでに時間差がある。
- 通信が不安定になることがある。